

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

地域の市民力と人的資本

佐藤 克宏

提案「人的資本としての市
民力を一緒に考えてみませ
んか？」

まちを動かす関係性（地域エンゲ ージメント）

こんにちは。宮城県南部に位
置する角田市から、生涯学習課
の佐藤克宏です。

まちを歩けば、花壇を整える
人、地域行事を支える人、学校
で子どもたちに声をかける人が
います。その小さな営みの連な
りが、まちを動かしていること
を感じることができます。

「人的資本経営」という言葉
を目にすることが増えました。
企業では「人」に対する資本と
しての見方をより強めていること
の一つの表れだと感じています。
では、まちはどうでしょうか。

社会教育の現場を見つめると、
人と人が関わり合い、そこから
新しい挑戦や学びが生まれてい
る。それは、地域における「工
シゲージメントの醸成」そのも

のであり、ま
ちの未来を動
かす「関係の
熱量」と言え
ます。

チャレンジデ ーク（集団効 力感）

角田市では、「チャレ
ンジデー」
が行われて
います。こ
の日は、角
田市にいる
全ての方に

15分以上身体を動かすことを呼
びかけ、日常生活に運動を取り
入れるきっかけにしていただけ
日です。市内様々な場所で取り
組みが行われます。学校や地域
ではもちろん、企業の皆様にも
ラジオ体操やウォーキング、清
掃活動など多岐にわたる活動が

同時に実施されるのです。
つまり、個人はもちろん、交流
が生まれ何かを始めるきっかけ
になっています。その変化は、
「地域効力感」の向上を生み出し
ているといつても過言ではありません。「自分たちのまちは自分
たちで元気にできる」——その



角田市チャレンジデー2025の様子

感覚が、住民の間で確かに育っています。

結果として今年は26036人の対象人口に10113人の参加者、38・8%の参加率となりました。『誰かの健康を願つて動く』という小さな行為が、『まち全体の効力感』を支えていきます。それは、人を資本と捉える社会教育の視座を改めて感じます。

かく大學…「学びの関係資本」を

角田市のもう一つの実践、「かく大學」は、行政主導ではなく「自分たちで学びをつくる」場を目指しています。

かく大學は、まちの中に「自發性が連鎖する文化」を生み出す挑戦とも言えます。それこそが、持続的な人的投資のかたちであり、学びによる地域経営の可能性です。

高校探究：「まちが学び合う組織になる」（心的柔軟性の育成）

角田高等学校と市の連携による地域探究は、若者が地域の課題を自分の視点で探り、解決に向け



かく大學最終報告会で地域プロジェクト報告をする参加者

で当たり前だと思って いた地
域の見方を問い合わせし、価値観を
柔らかく更新し始める姿を目に
することも少なくありません。
それはまさに「心的柔軟性の
育成」であり、異なる世代や立
場が共に考える中で生まれる学
びとも言えます。

また、市が展開する国内外留
学支援事業「そらトビ！かくだ」
も、同じ流れの中になります。

高校生が地域を飛び出して国内
外で新しい文化や価値観に触れ、
その経験を地域に還元していく
プロセスは、まさに「学びの越
境」と「再接続」の連続です。

彼らの語る気づきや挑戦は、地
域の大人たちにとつても刺激と
なり、まちの思考をゆるやかに
動かすのだと思います。

若者の学びは、地域の柔軟性を映す鏡。「そらくビー！かくくだ」のような地域外への越境と、「地域探求」のような内なる掘り下げの両方が、まちの柔軟性を見出します。つまり、社会教育は

で当たり前だと思つて いた地
域の見方を問いつし、価値観を
柔らかく更新し始める姿を目に
することも少なくありません。
それはまさに「心的柔軟性の
育成」であり、異なる世代や立
場が共に考える中で生まれる学
びとも言えます。

域の見方を問い合わせ直し、価値観を柔らかく更新し始める姿を目にすることも少なくありません。

こうした心の可塑性をまち全体で保つことに機能し、変化を受け入れながら学び続ける力＝地域のレジリエンスの源泉となるはずです。

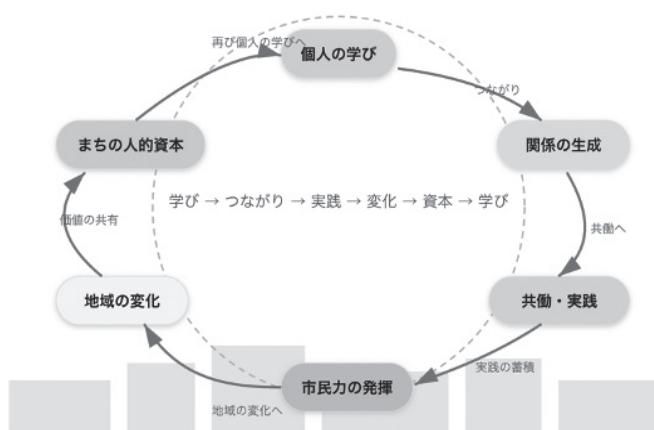
提案・「社会教育はまちの人的資本と捉えてみませんか」

これらの実践に共通するのは、

- ①人がまちに関わる「意欲と関係性」（地域エンゲージメント）
- ②共にできるという「集団効力感」
- ③「好き」や「関心」を起点にした内発的動機
- ④変化に開かれた心的柔軟性と



角田高校を飛び出し学ぶ高校生たち



まちの人的資本を育てる循環

結び・「人がまちを動かす」
まちは、そこに住む人々、そして関わる人々によつ

と。というと大袈裟すぎるでしょうが。

まちの人的資本として機能し、その仕事は制度の外側で人を支え、関係をつくり、未来への余白を残すこと。

そして、この学びこそが、新しいまちを創造する原動力となります。持続可能な地域社会を築くエンジンは、人的資本としての「市民の力」を大切に見つめ、「まち全体が学び続ける組織である」という理念を実践していくことに他なりません。

次号の「発想する！授業」は中央区の安西さんからお送りする予定です。お楽しみにください。

宮城県角田市教育委員会生涯学習課主査（社会教育主事）
佐藤克宏
連絡先：syougaku@city.kakuda.jp

いう地域レジリエンスの4つが相互に循環していることがあります。

これは、企業の「人的資本経営」における「人への投資」であり、地域を経営する視点に立てばこれほど重要なことはありません。つまり、社会教育は「まちの人的資本への投資」として機能し、その仕事は制度の外側で人を支え、関係をつくり、未来への余白を残すこと。

そして、この学びこそが、新しいまちを創造する原動力となります。持続可能な地域社会を築くエンジンは、人的資本としての「市民の力」を大切に見つめ、「まち全体が学び続ける組織である」という理念を実践していくことに他なりません。

て形作られています。

住民だけでなく、関係人口や交流人口といった多様な人々が関わり、互いに励まし合い、挑戦し合うことで、豊かな学びが生まれます。こうした「人のつながり」こそが、その地域の貴重な「人的資本」です。